

戦争を語り継ぐ会！4年ぶり再開

コロナ禍で中止を余儀なくされていた「戦争を語り継ぐ会」を、8月19日(土)13時30分から坂戸市文化施設オルモ2階ギャラリー1で、4年ぶりに再開します。

今回の語り部は柳町の鈴木博次郎さんです。昨年のニュース10月号「新島から漁船で疎開して」にありましたように、東京方面に向かうB29の編隊を伊豆七島の新島から何回も目撃し、新島から下田までの約40キロを10トンの小さな漁船のピストン輸送で夜間疎開、その年の8月、玉音放送が終わると家の中に安堵の気配が感じられた鈴木さんのお話しに耳を傾けたいと思います。

戦争を語り継ぐ会の会場のオルモでは、「原爆絵画展」も開催されています。併せて足をお運びください。

9条「このまま」3名から！

埼玉県知事選「9条」アンケート

8月6日投票の埼玉県知事選に立候補を表明している4名に「憲法9条」アンケートを行ない、3名から回答が寄せられました(大沢敏雄氏は連絡先不明)。

回答結果と「9条へのひとこと」を紹介します。

「憲法9条はこのままでいい」候補者(3名)

- ◆柴岡祐真(日本共産党) 戦争の放棄に加えて戦力の不保持と交戦権の否認を規定した日本国憲法9条は、国家間のもめごとを解決するのに武力を使わない、という考え方に基づいており、世界の最先端をいく規定だと考えます。ロシアのウクライナ侵略を見ても分かるように、武力に武力で対抗

するやり方では戦争を防ぐことはできません。徹底した外交の力でもめごとを解決する姿勢こそ、日本がめざすべきものです。

- ◆中島徳二(国護党) 自衛隊は、警察予備隊。防衛費は、半減させるべき。

- ◆山口節生(無所属)

「無回答」の候補者(1名)

- ◆大野元裕(無所属)

市民活動フェアの現場から(前編)

西坂戸 大山 茂

3月18日(土)、コロナ禍で延び延びになっていた対面での市民活動フェアが開催され、九条の会さかどブースでは、長年継続してきた「坂戸の戦跡めぐり」の写真パネルや案内図を展示しました。また、ブースを訪れた市民に渡すものとして、戦跡めぐりの資料と九条の会さかどニュースを用意しました。

戦跡めぐりの資料の特徴

戦跡めぐりの資料は2018年と2019年で参加者に配布したものを増刷しました。陸軍坂戸飛行場についてまとめた資料は少ないながらも何種類かありますが、私がまとめたものには幾つの特徴があります。

1 飛行場が増強された時代背景

急速に成長した日本独占資本と結託した軍部は、日清・日露戦争の勝利で日本の存在が注目されたことに浮かれ、欧米列強のアジア侵略を阻むことを名目としてアジアの盟主を気取っていたが、ロシアを攻撃する「北進論」と東南アジアへ進出するために米英と対峙する「南進論」とに分かれていた。

戦後78年 平和を心に刻む

ウクライナ人道支援 愛とヒューマンのチャリティコンサート

8月15日(火)16時~18時 入西地域交流センター多目的ホール

愛とヒューマンのコンサート委員会 (090-3519-6610 今野)

九条の会さかど 戦争を語り継ぐ会

8月19日(土)13時30分~16時 坂戸市文化施設オルモ2階ギャラリー1

新島から漁船で疎開して(柳町 鈴木博次郎さん)

ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展

8月19日(土)11時00分~19時 坂戸市文化施設オルモ2階情報研修室

8月20日(日)9時30分~18時 坂戸市文化施設オルモ2階情報研修室

原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会 (049-281-9595 白石)

原発をとめた裁判長そして原発をとめる農家たち映画会

8月20日(日)14時~16時 坂戸市文化施設オルモ3階ホール

原発をとめた裁判長坂戸市上映実行委員会 (090-2416-0026 越川)

「北進論」を掲げていた陸軍は、ソ連との本格的な戦争を想定し、首都東京の北西方向に陸軍航空隊の拠点施設を並べようとしていた。

2 飛行場建設への好条件

坂戸の千代田、関間、栄、鶴ヶ島の富士見などは、水利条件が良くないので、水田稲作に不向きであり江戸時代まではほとんど荒地であった。

首都圏に野菜を供給する畑作地帯として明治以降注目されるようになっていたこの一帯を、関東ローム層の台地だったことで、陸軍が飛行場に向いていると目を付けた。

そして、ソ連との戦争に備えるべく、農民から土地を強権的に奪い取り、瞬く間に陸軍航空士官学校分校として飛行場を建設した。

3 航空隊戦力は海軍にシフト

1940年、陸軍航空士官学校分校として坂戸飛行場の使用が開始された。陸軍は坂戸飛行場の地理的条件が戦略的に高いと考えていたが、1941年12月からの戦線拡大で東南アジアから太平洋にかけて米英とも戦うことになり、航空戦力は海軍にシフトされた。

そのため、大幅に増強されようとした坂戸飛行場は拡張が抑制されていたが、米軍による大反撃が始まり空襲が激化、防空機能を増強するどころか、航空戦力を満州に避難させるような事態になった。

4 戦後は情勢の変化に翻弄

1945年、ポツダム宣言を受諾した日本を平和な国にさせるべく、憲法9条で「戦争を放棄し、軍事力を持たない国」となったことで、坂戸飛行場を廃止し、飛行場跡に開拓農民を入植させる状況となった。

ところが、1950年に始まった朝鮮戦争は情勢を一変させ、坂戸飛行場も米軍基地として機能させようとする動きがあったが、基地化に反対する住民により平和のシンボルとしての桜が植えられるなどして、米軍基地化が阻止された。

しばらく放置されていた飛行場跡は1970年代に工業住宅としてセットで開発され、現在の若葉駅周辺の新興住宅地と工業団地に変貌した。

以上のような視点で、陸軍坂戸飛行場の歩みを展開した。あわや軍事拠点になる可能性があったのに「若者のまち」に変貌したことは、坂戸市民にとって記憶に残すべきことであると思う。（後編に続く）

【9条バトンリレー(8)】

「脱原発」をあきらめない

北大塚 武井 誠

東日本大震災、特に福島第一原発事故が起こったとき、私はこの国のエネルギー政策を「脱原発」に変えていく転換点となりうる、また、そうしなければ被災者や子・孫たちの世代にあわせる顔がないと思った。一握りの者の利権を大切にす政治からすべての者の命を大切にす政治への転換、憲法を蔑ろにする政治から憲法を守り活かす政治への転換だ。

私の予想・期待は大きくはずれたように見える。タガが外れてしまったかのように、多くの政治分野でとんでもない暴挙が積み重ねられている。そしてついに原発政策も180度転換。新設、老朽原発再稼働の法案が

可決されてしまった。まもなく「処理水」の海洋放出も始められようとしている。

しかし私は絶望していない。「誰もやらないなら私たちがやる」と行動する人たちがいるからだ。坂戸市民も例外ではない。多くのスタッフの協力で、被曝の不安を抱える福島県郡山市の小学生を夏休みに4泊5日無料招待（「コロナ禍」で中止となるまで6年間継続）。『日本と原発』『日本と再生』などの映画上映会の実施。「ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展」も毎年実施してきた。その中で交流の輪も広がった。

これらの取り組みは市と市教委の後援のもとに行なわれている。坂戸市議会6月定例会で石川清市長は「『世界の原発は即やめるべきだ』等の今までの市長の考えは変わっていないか?」という私の質問に「人間が制御できないものはやっちはいけないと思っている。変わっていない」と答弁した。評価したい。

これも坂戸市・市教委の後援で、8月20日(日)午後2時から坂戸市文化施設オルモ3階ホールで映画会が実施される。『原発をとめた裁判長そして原発をとめる農家たち』という長いタイトル。関西電力大飯原発に運転停止命令を下した樋口英明福井地裁元裁判長、そして被災地福島で営農型ソーラー発電に取り組む若者たちが主人公である。農場を視察し、樋口さんの講演会に参加した有志の呼びかけで実行委員会が結成された。同日には情報研修室で「ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展」も開催されている。

講演会の最後で樋口さんはキング牧師の言葉「究極の悲劇は悪人の圧政や残酷さではなく、それに対する善人の沈黙だ。問題に対して沈黙を決め込むようになったとき、我々の命は終わりに向かい始める」を引用し、そして「まずは信頼できる友人2人に話すところから始めましょう。その2人がさらに2人に話せば…」と結んだ。

私は「孫に原発残して死ぬるか」というプラカードをもって集会やデモに参加している。共に声をあげよう！行動しよう！（次回は薬師町の鶴澤 洵さんに）

終戦の日ウクライナ支援コンサート

緑町 今野 強

昨年2月のロシアのウクライナ侵略以降「愛とヒーローマンの反戦平和のチャリティコンサート」は近郊自治体も含めると大小20回を超し、ウクライナへの人道支援金も約70万円贈呈できています。

今回はフランス国立パリオペラ座楽団のトリオに日本フィルの名ヴァイオリニスト松本克巳さんが加わるピアノ・チェロ・ヴァイオリン、フルートによる豪華なアンサンブルです。意義深い終戦記念日に、ぜひお出かけください。

- 日 時 8月15日(火)16時～18時(開場15時30分)
- 会 場 入西地域交流センター多目的ホール
- 参加費 当日チャリティ募金にご協力ください
- 連絡先 090-3519-6610(今野)

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

8月28日、9月25日、10月23日(第4月曜日14時～16時)
会場は坂戸市役所に隣接した勤労女性センターロビー。